

第8章 自由回答にみる有識者と地元の国立大学

富江英俊（東京大学大学院）

- 8-1. 交流の実態について
- 8-2. 交流の障害について
- 8-3. 交流促進への提言について
- 8-4. 国立大学の所在地について
- 8-5. 私立大学との比較
- 8-6. 普遍的な学問研究への期待について
- 8-7. まとめ—大きな期待を集める国立大学—

本章は、今回の調査の質問票の最後におかれた自由記述回答欄をデータとして、地域の有識者と地域交流について考察したものである。その自由記述回答についての質問は、以下の通りである。

最後に、〇〇大学について、あるいは地域社会と〇〇大学との関係や交流について、あなたの率直なご意見をお聞かせ下さい。

この自由記述回答欄には、2256人の回答が得られた。これは全回答者の55.8%にあたる。同様の自由記述欄は教員調査においても設けたが、回答した割合は全回答者の30.7%であった。単純に比較することはできないが、回答率の違いからしても、有識者の大学に対する関心の高さがうかがえる。

2256人の回答は実に多種多様であり、系統立てて分析するのは難しいが、本章で取り上げる回答は、①多くの回答者が回答している内容（「多数派意見」）、②大学＝地域交流について具体的な実態・希望が描かれているもの、③アンケート調査の統計的分析と関連があるもの、を一応の基準として選んだ。特に①を最も重視した。したがって、多くの回答者が言及しているテーマごとに各節をまとめてある。

本章の構成は以下のとおりである。8-1. では具体的な交流の事例を紹介し、8-2. では交流の障害、8-3. では交流促進のための提言、8-4. では国立大学の立地をめぐって、8-5. では私立大学との比較、8-6. では普遍的学問への期待、最後に8-7. では国立大学への大きな期待、についての自由回答を取り上げる。

8-1. 交流の実態について

まずは最初に、盛んな交流がおこなわれている実態について記されている事例を取り上げることにしよう。

昔は東北大を卒業しても東北に職場がなく、卒業生は関東や関西方面に職を求めて行った。最近では大学も多くなり、東北大の卒業生も多くなり、仙台市にも東北大出身者が多くなりました。東北大は国家的人材養成機関としての流れから地方との関りがうすかったのですが、現在は県庁・市役所等をはじめ卒業生が幹部として活躍するようになり、又、地方行政と東北大との関り方も密接になってきて居ります。

(宮城県・政治)

小生は本学教育学部卒業生である。すぐに県教委に就職したがその当時の教官・先生方は積極的に県内の学校現場や団体との交流や指導、相談に熱心で県教委としても大変有難かった印象がある。それが今も続いており、いわゆる象牙の塔にこもらない大学・気軽に出向いて行ける大学という印象を持っている。他の医学部や工学部、文学部なども同様地域社会や研究・開発面で可能な限り、地域社会と関りを持つと努力している気風がうかがえ、大変有難いと感じている。(宮城県・行政)

私どもの会社は、産・学・官連携による東北インテリジェント・コスモス構想推進協議会のもとに設立された、研究開発、産業開発支援会社ですので、日常東北大学総長以下教職員と密接な連携をもって事業推進しています。東北地域の大学・高専研究員1,200人による学術振興財団もあり、地域連携の枠組みはでき上がっていますので、東北大学のイニシャティブを大いに期待しています。(宮城県・産業・経済)

現在、新潟大学が地域社会との交流等について、どのような具体的事業を展開しているのか、正確にはよく分からないところですが、私どもの行政に従事する立場からは地元の国立大学には様々な面でご指導をいただいております。より、地域に開かれた大学を展望し、市民にとって政治・経済・文化・自然・科学等の各分野で、公開講座やセミナーなどが積極的に展開されることを期待しております。(新潟県・行政)

歯科医療、保険分やの仕事をしている関係で、広島大学歯学部との交流が多い。現在、卒後教育、患者の診療分担、歯科保健研究の面で協力し合っている。行政、産業の分野でも交流をして、お互いの役割をもち協力して活動していくことを希望します。(広島県・医療・保健)

香川大学の外人の先生に英会話を教えていただいております、ありがたい。(英語力の向上及び異文化との交流の両面で有意義)・香川大学農学部の先生に私どもの仕事の検討会に出席していただいている。また、この先生から、大学のシンポジウムの案内等を時おり、いただいている。(香川県・行政)

熊本大学医学部卒業であるが、インターンは九大医学部、また、研究も九大医学部、博士取得も九州大学である。九大医学部の文部教官、福大医学部助教授へ就任、その後国立病院に勤務、国立病院院長退官後、医療法人の病院長として現在に至っている。従って九州大学医学部とは関係・交流が深い。現在は地域医療にがんばっているが、当院の医師は九大医学部及び福大医学部の医師が多く、非常勤医も派遣してもらっている。医療及び医学研究のための交流も深い。(福岡県・医療・保健)

佐賀大学の先生も、行政との係わりを積極的に持ちたいとの意気込みから各種の審議会、委員会等に積極的に参加してもらっている。その席で、地域づくり等への提言、意見等をいってもらっている。(佐賀県・行政)

本県にとって佐賀大学の存在は大変大きなものがあります。低平地の問題等、本県独自の環境なりに即した研究等も手がけられており、特に技術関係では産・学・官一体となつての推進が図られております。光シクロトロンに関する国事業の取り込み等も、理工学部の肝いりで、県商工労働部が取り組んでおり、これから益々関係が深くなって行く予感がします。(佐賀県・行政)

県の審議官や委員会に佐大の先生達が多く出て来られている事に「おや!」という思いがしました。又普通交流がない先生方の素晴らしい意見が聞けて大変参考になり、又嬉しい思いをしています。いろいろな場面で地域との交流をしていられる事を拝見してとても良い事だと思っています。今後どんどん地域へ出て来て頂きたいと思います。女性団体との交流もお願いします。(佐賀県・社会・福祉)

比較的具体的な交流の実態が書かれているものを取り上げたので、「〇〇大はよくやっていると思う」「〇〇大の先生にはお世話になっている」といった記述は、少なくとも上記の数倍はあった。

さて、統計的な分析によって、医療・保健や行政の領域の回答者が相対的に大学との交流を密におこなっている傾向が明らかになったが、自由記述で交流の実態について記している回答者は、これらの領域に属している人に多い。また、有識者は自分の属している活動領域に関係のある大学との交流については高い評価を与える傾向があることも統計的な分析によって明らかにされたが、次の記述はこの傾向を裏付けるものである。

新潟大学について、本題に答える程よく知っていない。私の知っている工学部で言えばかなりよくやっていると思う。又、地域との係わりは学部によっても差が有ると思う。(新潟県・産業・経済)

大いに交流を計るべきことと考える。関係する部以外との接触は非常に少ない。(広島県・医療・保健)

全体から見れば、交流している方に入るであろう回答者においても、大学全体でどれ程交流が行われているのかは、わかりにくいということのようである。

8-2. 交流の障害について

8-2-1. 地域と大学とのミスマッチ

続いて、大学と地域が交流する際の障害についての意見を取り上げていこう。まずは、地域のニーズと大学が提供するアクションが一致しないというものである。例えば次のようなものである。

九州大学に関しては地域への還元度において他大学に比べて劣っているとの感触がある。地域社会の人材再教育を含めた社会に対し無関心な教員・事務官が多すぎる。私は、資格、ライセンス取得の為に大学院への入学や学部教育への聴講等に付、照会した折担当者からその様な不純な動機で九大には来ないでくれと云われガッカリした。→他大学へ依頼して上級ライセンスを取得するのに便宜をはかってもらった経験がある。(福岡県・教育)

最近、新設の新大工学部福祉人間工学科に取材に行きましたが、少しがっかりしました。福祉人間工学と

いう看板を掲げながら、現実の障害者福祉などへの理解と関心が薄く、地域が求め、期待しているものとはほど遠い感じを受けました。(新潟県・報道・出版)

県民から「あの学部のスタッフの大部分は思想的にある方向に凝り固まっているので話しても無駄だ」といった声を時々耳にする。交流の疎外要因の一つとも受けとれる。(新潟県・教育)

法文(経済)系では各種行政委員となっている先生方も多いが、地方分権、行財政改革等の具体的処方箋を出してくれるまでに至らず、抽象論どまりでありあまり期待されない。(新潟県・行政)

特に人文科学分野における研究者の中には研究そのものや現実的課題についての意見が抽象的過ぎる。又中には理論が極端で非現実的であり、実際の行政(企業活動)とは相いれない者も少なくない。(福岡県・教育)

ところで、アンケート項目には「地域にこたえるような研究が少ない」というものがあり、それへの回答は、他の障害を聞く項目に比べて、大きな違いはなかった。しかし、地域のニーズと一致しない点への自由回答記述は、他の障害についての記述より、多く寄せられたようである。それは、研究分野・研究領域としては地域のニーズに合っていると看做しても、大学教員が地域の課題(問題)に関わるスタンスへの不満であると考えられる。以下のような意見がそれにあたる。

東北大関係者は旧帝大としてのプライドがすご〜く強くて、ちょっと、へキエキ。学問的な理由づけは、さすがに頭良い人達の集団だな〜とホレボレするけれど、「そこまで」のイメージです。ドロドロの現場には、おりて来ないで、上から見てる気がする。上から見てるのって気持ち良いだろうと思う。「手は汚しません」って感じです。(宮城県・社会・福祉)

教授の中に、行政について語る時、問題点や課題を挙げづらい、評論家的に述べる人がいる。特に新聞等で。我々が教示或いは指導願いたいのは、問題点等に対する方向性とか指針とか、或いは改善策になり対応策であって、評論などを聞きたいのではない。(香川県・行政)

一部の市民と手を結び、センセーショナル的に行政を攻撃するのは、いかがなものかと思う。何の為の学問かと疑わしく思うことがある。(香川県・教育)

九州大学の先生といえば、地域と融合しているのは、行政に反対する先生しか印象がない。行政に反対でなくどうすれば良くなるのかが課題である。そのような先生が九大から出ないのは残念である。(福岡県・行政)

特に、行政の領域から、このような意見が多かった。専門的知識の有無を云々する以前の段階で、地域の自分たちにはプラスになっていないという厳しい評価である。

8-2-2. 学閥の存在

続いて、学閥についての意見を取り上げる。学閥については、生々しい実態を告発したようなもの

は無く、一言言及してあるものなどが多かったが、そのほとんどは学閥のマイナス面を指摘したものである。

教育学部卒業生は、学閥の支配する系列の先生となるため、県の教育行政にも歪みを与えている。学閥支配をなくさない限り、教育の専門家を輩出する新大全体の県民の依頼は向上しない。(新潟県・行政)

時と場合によっては新大卒にあらざれば人にあらざるという風潮がある。(新潟県・医療・保健)

九大卒でなければ…という学閥が随所で見られる。地元出身の人との親密度と、他地方から来た人との対応に温度差がある。財界・政界では顕著。(福岡県・政治)

余りにも学閥意識が強すぎて、他大学出身者に対し排他的(地域交流においても)と思う。(福岡県・医療・保健)

このようなマイナス面以外の意見としては、「学閥がはびこることと、地域交流がさかんになることとは、裏腹の関係にあるのではないか」という意味の記述もあった。つまり、卒業生どうしのつくるネットワークによって、大学と地域との距離が縮まっていくことは確かなのであって、学閥の存在が大学と地域との交流に与える影響はプラスとマイナスの両面がある、という意見である。

8-2-3. その他の交流の障害

交流の障害についての記述は、すでに取り上げた「ミスマッチ」と「学閥」に関するものが多かったが、少数派の意見として、次のようなものがあった。

卒業生は別として、一般市民は、東北大学とは近付き難いところ、自然に、また率直に言葉をかわすことのできない人(教官)との印象が強い。雲上人とは言わないまでも、近より難いところ接し難い人達と一段上の人間とみる傾向がある。(宮城県・教育)

教授陣も学生も東京志向が強い。地元県としては大変もったいない存在であるが、やはり使い切れない面は多い。オールジャパンの大学として発展してゆくべきだ。(宮城県・行政)

本県として、香川大学の先生方には大変お世話になっています。深く感謝しております。しかしながら、先生方の仕事が、多忙すぎるのではないかと感じる場合があります。もう少し、先生方に時間的余裕があれば、各種調査の分析等をお願いしたいこともあり、又はご意見をお聞きしたいこともありますが、予定がギッシリ組まれており、言い出しづらい面があります。(香川県・行政)

最初のものは、「敷居が高い」という指摘、2番目は、地域が大学にみあったものではないという、地域の側に厳しい評価をおこなっている意見である。最後のものは、教員が多忙であることの指摘で、教員調査の自由回答で大変多かった「研究・教育に多忙で地域交流する余裕がない」という意見に対応するものとなっている。

8-3. 交流促進への提言について

続いて、どのような交流を期待しているのかを、見ていくことにしよう。

8-3-1. 情報開示の希望

国立大学への期待として、「大学の情報を広く開示する」というのがアンケート項目に入っていた。情報開示への期待は非常に高く、これと同列に、大学への期待を聞く他の質問項目（例えば、地域代表の大学運営参加など）が6つあったが、その中で最も期待が高いという数値を示したのである。

自由回答欄においても、この点への記述は多く、次のようなものがあった。

仙台市から離れた市町村は、東北大学の行事・情報等を知ることが出来ないので、県政だよりに掲載して戴きたい。(宮城県・教育)

地域との交流についての情報は大学側から余り聞こえて来ない。大学のホームページを見ても、地域間交流のコーナーがなく学部や入学に関するものが目立ち地域とのつながりを持つとすると、努力が見えない。相談すれば積極的に支援もしてくれると思うのだが見える「窓口」にしていただきたい。(新潟県・行政)

新大関連病院には、医学部以外の学部の広報的な情報誌のような物を配布して戴けないものでしょうか。(新潟県・医療・保健)

新潟大学と地域との交流の報道に時々接するが、さらにそのような機会を拡げて、もっと地域の住民が大学の研究内容を知る機会を多く作ってもらいたい。そうすればこれについては新大の〇〇研究室で情報を持っているなどが解かり、知恵を与えてもらえることが可能となり、地域に対する大学の存在意義も高まるものとする。(新潟県・教育)

研究結果は、学会誌、学会発表のみならず、また学内でなく発表の場を設け、一般住民を対象に行うこと。(例、テーマ別に2～3日広島国際会議場で行う等)→研究成果の公表・県民へのフィードバック。(広島県・行政)

大学側から住民に対しての情報提供を積極的に。理解しやすい用語で、出来れば各世帯へ月1回でも機関紙を。(住民への協力要請等も有って良いのでは) 今後、当校の卒業者が集まるつどいの機会等を作り、卒業生も本市(住民)との係わりを持つよう努力してほしい。(広島県・教育)

県民が「こんな事をしているのか。」とわかるように、PRに心がけてはどうかと思う。たまには夏季大学等の講座案内は目にする事もあるが、常に広報に留意すれば、我々の仕事においても、「一度相談したいなあ」という事になるのではないかと思う。又、窓口(相談)がよくわからない。(香川県・行政)

もっと多数のマスメディアを活用し、広報、交流、研究成果の発表等を行い、開かれた九州大学を望む。一例として広報課を設置し、テレフォン相談(サービス)からインターネットまで大学が一体となって情報の提供をすべきと考えます。現在は各研究室や研究者の個人的なものが多く、総合的、共通的なものとしていない。(福岡県・教育)

多くの先生方は、県（国）の頭脳トップとして研究成果や、知見を地域に展開すべく努力をなされている。先生方の研究成果（工学・理学・生物学etc）をその展開応用、事業化の可能性まで含めた形で一般公開発表会をして頂いたら、更に地域との交流も深まるのではと考えます。勿論有料でも構いません。（佐賀県・行政）

広報、発表会といった伝統的なものから、近年普及したインターネットまで、様々な形態で、情報開示して欲しいという需要がうかがえる。

8-3-2. 地元子弟の入学への優先枠・卒業生の地元定着への希望

「地元子弟の入学への優先枠」は、統計的分析では、情報開示や施設開放などに比べて否定的意見が多いが、自由記述ではある程度の意見があった。「卒業生の地元定着」もそれと関連することとして、ここで紹介したい。最初の2つが入学について、最後のものが卒業後についてである。

地元の大学として（米における州立大学のように）地元優先ワク（5～10%であとは一般入試）を設ける一方で県・市からもProject、拠出プレゼント講座に対して拠出させるべきである。（山形県・行政）

広島県内の高校生の進路先として、その受け入れに工夫をして欲しい。そのことが地域社会と交流の活性化に繋がると思う。また県民への情報提供を工夫して欲しい。そのことで開かれた大学のイメージづくりになると思う。（広島県・教育）

新潟大学の学生の内、県内出身者の割合は低く、卒業しても県内で活躍される方が少ないと聞いています。県内子弟のための優先枠を設けていただき、より地域のための大学、地域と積極的に交流する新潟大学を期待しております。（新潟県・行政）

一言だけ「地元子弟の優先枠を望む」と触れている回答もあり、これに言及した回答者は、ある程度の人数はいるようである。

8-3-3. 公開講座・社会人講座

質問項目についての統計的分析の結果では、「職業人の再教育」という大学の地域貢献は、現状は大変評価が低く、将来は「もっと貢献すべき」という期待がとても高かった。自由回答においても、公開講座などの社会人対象の講座へのニーズを語ったものが多かった。

国際的にトップを行く研究を続けていく。その中で国際的にトップレベルの人材を育成していく。このことを基本としつつ、地域等に、その成果を公表し、また、その入門レベルのところ、社会人教育等もして欲しい。今、社会に出た人たちこそ、学問をしたいと強く望んでいる人が増えていると思う。（宮城県・産業・経済）

1. 「地域に開かれた大学であるべき」と言われて久しい。しかし、実態は十分県民に活用されていないと思う。2. 15～20年前、市民大学講座のような形の私的の講義を経済学・社会学について月1回1年間（読書会のようなもの）受けた。通算4年。また、短大で聴講生として、会計学、経済学を年間受講した。

3. こうしたニーズは多いと思うが、場所が便利でないと、夜はサラリーマンにとっては無理である。古町のど真中でやってほしい。4. また、短期大学を廃止されたが、夜間の苦学生の希望は多いと思う。5. 短大の復活はできないとしても、夜間講座を便利な場所で開設されることを願っています。

(新潟県・行政)

社会人のための教育講座を実施されておられますが、もっと種類とより詳しいことが知りたい場があります。昨年、「新民事訴訟法」の公開講座に参加しましたが、より深く学ぶには、昼間の大学授業を聴講しないと理解できない部分がありました。短期間の講座で、いたしかたないと思います。今後は長期間の講座も考えていただけたらと思います。(香川県・行政)

それぞれの意見とも、かなり具体的なニーズを挙げているのが注目される。

8-4. 国立大学の所在地について

本節で取り上げるのは、地方国立大学がどこに所在しているのかという点に関連する自由記述である。地域の側からすれば、交流相手となる大学が県内のどこにあるかは重要な要素である。アンケートの質問項目には、大学の所在地についての質問はそれ程含まれていなかったが、自由記述では、このことに触れているものが非常に多い。このため、一節を設けることにした。8.4.1. では、県内でも大学から離れた地域への配慮について記されているものを、8.4.2. では大学の移転についての意見を取り上げる。

8-4-1. 大学から離れた県内の地域への配慮を求める声

今回の調査対象の7県・7大学においては、山形大学のみが、県内のいくつかの都市にキャンパスを持っているいわゆる「たこ足大学」である。また広島県は、広島大学のほとんどは東広島市に存在し、県庁所在地の広島市には存在しない。それ以外の県は、県庁所在地に国立大学が存在する。ということで、近くに国立大学がない市町村も多いわけである。大学から離れた地域の、「地理的に離れているため交流がない。当地域にも配慮を。」という意見を紹介しよう。

宮城県は、東北の中心都市「仙台市」と一方では「七ヶ宿」や「花山」などの過疎の町とに大きな差が生じている。先端技術の研究・開発についても、これまでどおりに力を入れていただきたいと考えるが、通常ベースあるいはローテクの中からの、産業おこしや地域づくりについてもご指導をいただきたいと考えている。今後は、そのための地域社会との交流をもっと深められたい。(宮城県・行政)

上越地方は新潟市に遠く位置している為何かと不便。何か、相談(聞きたい事)があっても機会を造るのが不便。上越地方での講演会とか、シンポジウムを多く開催してもらい教授・助教授等との交流の機会がほしい。何か知りたい時の窓口(申込)先のP.Rがほしい。(新潟県・政治)

私は現在、広島県東部に在住していますが、正直云って広島大学と地域社会との関係はよくわかりません。広島市周辺や東広島地区の方なら実感があるでしょうが…。(広島県・産業・経済)

県内と言えども距離的に遠く日常的な交流は望めない。県内の三ヶ所（広島市・三原市・福山市）に出向いてのオープン講座の開設などを考えられたらどうか。あるいは、社会学や地理・生物などで県内をもう少し詳細に研究するような（あるいは私が知らないのかもしれませんが）ゼミなどを設けられたらどうか。（広島県・行政）

広島県北部地域は、広島大学との交流があまりないように思う。瀬戸海沿岸経済中心の交流がなされているのではないかと。農山村で生きる者への研究テーマがほしい。（広島県・教育）

九州大学の所在する福岡市及びその近郊にいる場合はより身近に感じるのかも知れないが、日常的には特別な交流もないし、遠い存在という印象である。情報不足なのか、九州大学がどのような対外的なアプローチをしているのかわからない。公開講座の積極的な開催、特に出前による郡部を含めた広域的な事業を望みたい。（福岡県・政治）

これらの意見は、県の面積が狭い香川県・佐賀県では比較的少なかったようだが、すべての県である程度の数が見られた。大学と地域の交流を考えると、県の内部での地理的距離も無視できないのである。

そして、地方国立大学から地理的に遠い地域は、近くにある別の大学等との交流が密となるケースを述べた意見も多くあった。次のようなものである。

私たちのところは、上越教育大学が近いせいか、地域振興、地域経済、福祉、障害児教育等で上教大との関係がありますが、新潟大学のことはよく知らないのが実情です。（新潟県・行政）

新潟大学は県部に集中している為、私の住んでいる長岡では技術科学大学や造形大学により親しみと愛着をもっている。地域の交流は長岡の二大学で非常にうまく行われており新潟大学にこちらから呼びかけてゆく必要は感じない。（新潟県・政治）

町段階（本町に関しては）では、殆ど交流の機会がない。むしろ、隣接市の四国学院大学の教授との交流が深く、町史の編集執筆等でも協力してくれているし、町民講座の講師も気易く引き受けていただいている。同和関係でも、町の総合計画策定、「人権教育のための関連10年」の行動計画の策定も、当初から積極的にかかわってくれている。どうも、そうした点で（距離的にも香川大学は遠隔地にあるため）なじみが薄く、つつい疎遠のまま現在に至っている。唯一、社教主事講習で何年かに1回、お世話になっている程度である。（香川県・教育）

北九州市ではなく福岡市にあるので日常は関心が薄い。北九州市は、公立北九州大学を運営しているため北九州大学と北九州市の関係が非常に深く九州大学とは医学部以外は、関係がない。（福岡県・政治）

私が今深くかかわっている大牟田市の再建（100年間にわたり当市の基幹産業であった三池炭鉱が昨年3月閉山した）には産学官の連携協力が必要であり、九大に期待したい処であるが現実には大きな期待は無理であろうと考えている。それは、地域に関する九大の関心はやはり福岡市や北九州市の方を向いており又、

実際問題として他の地域に関心を向ける余裕もあまりないであろうと思うからである。当地では交流したい「学」は当市に立地する有明工専である。(技術的分野に限られるが) アンケートには期待を込めて回答しましたが、本当に期待するのは有明工専の充実であります。(福岡県・産業・経済)

県内の他の国立大学、私立大学、公立大学、工専との交流への期待が述べられている。国立大学が、県内のすべての地域から期待されているわけではないことが伝わってくる。なお、私立大学との比較についての意見は、次節で扱うことにしたい。

8-4-2. 大学の移転をめぐって

次に、大学の移転についての意見をまとめてみる。今回調査対象となった7大学においては、移転を経験した、あるいは移転計画がある大学が多い。広島大学は広島市などに分散していたキャンパスが統合され、東広島市にはほぼ全面移転した。新潟大学は、かつては長岡市に工学部、上越市に分校が存在したが、新潟市に統合された。山形大学については、現在の分散型キャンパスを統合するという移転計画があり、東北大学・九州大学においても、さらに郊外へ移転するという計画がある。

このうち、東北大学・九州大学については、「地域交流にとっては、現在のキャンパスの方が望ましい」という意見がほとんどであったことのみを指摘し、事例として取り上げることは割愛する。山形大学・新潟大学・広島大学を中心に取り上げることにしよう。

まず山形大学であるが、人文・理・教育・医学部が山形、農学部が鶴岡、工学部が米沢という、タコ足大学となっている大学の現状について、次のような意見が出されている。

農学部・工学部を山形市内に統合し、現在の大学より広い場所に移し、総合大学として機能を充実させてほしい。(山形県・政治)

山形大学農学部移転は、大学との関わりが遠のき、庄内地区の農業教育その他多々マイナスとしますので反対です。勝手な考えかもしれませんが、当地区の若い方々の流出、人口の減少・活性化にも影響が大だと思います。庄内平野の中にこそ農学部を置いて下さい。(山形県・文化・芸術)

山形大学の学部のうち工学部が米沢、農学部が鶴岡にあることを大変評価して来た一人であります。物理的距離が総合性の発揮の疎外など論外だと思う。(山形県・産業・経済)

山形県は、交通体系が未整備のため、県としての統一的活動にやや欠ける面がある。山形大学も、山形、米沢、鶴岡とキャンパスが分かれているが、それを逆手にとって、各々の地域との交流を深めておられると思う。(山形県・教育)

最初の一つが統合移転に賛成の意見で、後はすべて反対、つまり現在の分散型キャンパスを評価する意見であるが、自由記述の中での賛成・反対の意見の割合は、ほぼ同数である。また、ここで取り上げた回答は、すべて違う領域の回答者であり、有識者の所属する領域による立場の違いが微妙に現れているように感じられる。ここで取り上げた自由記述は、必ずしもそれぞれの領域における代表的

な意見ではないことを付記しておく。

かつての分散キャンパスを統合して郊外へ移転した新潟大学・広島大学については、移転により交流が減ったという意見が多く見られ、特に広島大学においては、それが顕著である。一言だけ触れているのも含めれば、広島県の有識者の自由記述のうちのかなりの割合は、キャンパス移転のことに言及している。以下に挙げたものはほんの一部である。

以前は新潟大学に分校があり、地域社会との関りは非常に大きく、教育文化・経済・ボランティア活動等の交流が盛んに行われていたように思います。現在は新潟市のキャンパスのみであり、新潟県全体からみるとこうした交流は少なくなったと思われるが、今後はこうした面をカバーする方法は考えられないものか。
(新潟県・教育)

広島大学が広島市にあった時は、その情報がよく見られたような気がするし、研究者との交流もあったように思うが、東広島へ移転したことにより、広島市への情報、交流は減ったような気がしています。時には、先生がふらりと「酒を飲みに行こう」とさそわれていたのに、それも、距離が離れることによりむつかしくなったようです。東広島キャンパスは、確かに環境としては素晴らしいのですが、その代償、(犠牲といってもよいかと思います)も大きかったと感じています。(広島県・教育)

私は福山在住ですが、昔は広大の教育学部が福山にありましたので、小学生の頃は当時の大学院の学生さんにスポーツ教室でお世話になったり、また、私たち自信が研究のお手伝いをさせてもらったりと、深い関わりを感じました。現在は、東広島へ統合されましたので、福山市民という部分では、広島大学は遠い存在に感じます。(広島県・産業・経済)

そして、かつてあった都心部に、窓口のようなものを作って欲しいという提案もある。

大学と地域社会が切りはなされている。意識の上からも、地理的にも。例えば、大学は市内中心部にサテライト・オフィスや研究室、教室をつくり、市民交流をはかることもひとつの方法では。(新潟県・政治)

1. 広大の先生方に仕事の関係で相談したいと思っても距離的に遠く、以前に比べて疎遠の感じである。
2. そのため、広島市側も今後十分検討すべき課題であるが、広大の先生方と気楽に話しができるサロンのような場があればと思う。(広島県・行政)

これらの移転統合についての意見は、「地域エゴ」の意味あいを感じさせるものもないわけではないが、国立大学の所在地の問題は、それに止まらない大きな論点につながるものであることは確かである。移転によって大学と地域との関係が大きく変化すること間違いない。

8-5. 私立大学との比較

この節では、県内にある私立大学と国立大学との地域交流における比較を扱った回答を取り上げる。前節で扱ったのは、地方国立大学以外の近くにある大学との交流が盛んにおこなわれていることを記した事例であるが、地理的な要因とは無関係に、私立大学と地域との交流を積極的に評価する意

見も多い。

この点について最も意見が出ていたのは山形県である。4年制大学が国立の山形大学のみ時代の長く続いた山形県に東北芸術工科大学が設置された。この新しい大学がおこなっている地域交流の積極性を高く評価する意見が多い。

数年前当地に新設された東北芸術工科大学の職員の方が、ずっと積極的に学生を動かし、それが市民への働きかけにもなっている。自治体や地域文化行政への働きかけも積極的だ。新聞・テレビのニュースにも芸工大のことばかりが出てくる。(山形県・教育)

芸工大の場合、地域と密着している感じがします。芸工大の教授は、山新などで研究を明らかにしたり、新しい発想を次々と県民の前に出したり、鮭川村のような田舎にも、教授や大学生が僻地校を訪れたりしてくれるので親しみが深い。(山形県・教育)

同じように、他の県においても、私大と比べて国立大学は地域交流していないという意見が寄せられた。

東北学院大学や、東北福祉大学と比較して、地域社会との実践的かわりが少ないように思います。(宮城県・行政)

すでに様々な面で、福大・西南大に遅れをとっていることを自覚し、危機感を持って欲しい。(福岡県・報道・出版)

県内の私学、四国学院大学に比べて、教員の地域の市民活動への参加は少ないように思います。地域の抱える大きな問題への取り組みが、大学全体としては見られません。また、学外の人(地域で活動している人)を招いての講座(四国学院内ではありますが)もないように思います。(香川県・政治)

これらの意見から、国立より私立の方が地域交流に積極的という評価が、どの県の有識者のあいだにも強くみられる。だが、そのことは、私立大学が地域と交流しているから、国立大学は地域交流しなくてもよいと考えているわけではない。統計的分析においても、県内の他大学への期待もある程度あるものの、もっとも多くを期待しているのは国立大学なのである。つまり、私立大学への高い評価は、地域交流のノウハウや蓄積を国立大学も私立大学から学んで地域交流を積極的におこなうべき、という期待の裏返しなのかもしれない。

8-6. 普遍的な学問への期待

ここまでみてきた意見は、ほぼすべてが国立大学と地域社会の交流をもっと促進すべきであるという考え方の上に立つものであった。しかし、大学に対して地域との交流よりも普遍的な学問研究を期待する意見を述べたものもある。「国立大学のあり方」として、地域社会との交流を重視すべきか、普遍的な学問研究を求めるべきかという二者択一の設定に対して、後者を支持する意見の人は3割強ほどであるが、自由記述欄には、少数ながらも、普遍的学問研究の追究を期待する記述も存在する。次

のようなものである。

国立大学、特に東北大学は歴史も古く、蓄積されている研究成果も豊富でしょうから、地域社会との関わりをこたわることなく大学独自の理念に立って普遍的学問活動に専念することを望みたい。(宮城県・行政)

東北大学全体としては、地域社会にとらわれることなく、日本全国、世界を見すえ、短期的でなく長期的な展望に立って研究、教育をしていただきたいと思います。全国から集ってくる学生の資質は十分それに応えるに足ると信じております。従って地域社会との関係や交流は副次的なものでよいのではないのでしょうか。各地に設立された県立大学はそれを補う意味でできてきたと私は考えております。(宮城県・医療・保健)

大学はあくまでも学問の追求の場であるべき。地域との交流、行政サービス…とは大学は異質なもの。人材育成の場、高度な基礎的な知識・技術の修練の場。各大学とも独自のカラーを持った取り組みが必要ではないか。(山形県・行政)

国立大学は、地域社会にとらわれることなく、専門的学問に専念すべきで、共同研究等で企業との係わりは是非必要と考えていますが営利目的となることは避けるべきと思います。(広島県・行政)

九州大学はわが国有数の国立大学であり、常に国際社会に対する貢献を目指すべきである。地域社会への貢献も大切ではあるが、それは第二儀的なことではないか。グローバルな研究者間の競争に勝ち抜いて、その成果を学生に伝えることが大学教育であって、地域社会との交流を主に考えるのはアカデミックな競争からの逃避になりはしないのか？(福岡県・政治)

上から2番目の意見で、「地域交流は県立大学がやればよい」と出ているが、これは前述した私立大学などの県内他大学との比較、といった点にからむ話で、国立・公立・私立の役割分担といった議論につながるといえよう。

ところで、ここで扱ったような意見も「地域交流を主にするのはいけない」ということで、全く否定しているわけではないようである。アンケート設問項目では、「地域交流」と「普遍的学問」を二律背反としたが、実際はそのようなものではなく、出来れば両方とも国立大学に期待したいところであろう。次の意見はそのような例である。

国立大学がどの程度の「地域性(ローカルティイ)」を持つべきかは大変難しい問題だと思います。なぜなら、大学は“グローバル”な理念、研究レベルを研究・教育することにより全国・全世界から学生と研究者を受け入れるべきですし、卒業生も同じように全国・全世界に供給すべきです。しかし同時に、大学は自らの拠って立つ地域を常に意識し、その地域に“ローカル”な貢献をすべきです。このふたつともが、ひとつの地域に根ざした大学の使命として果たされなければならない。だから、難しい。率直に言って、大学はこれまで後者の地域貢献の部分がやはり努力不足だったと思います。これからは思い切って、この点での試みをふやしてみたらいかがですか。そうした中から一定のバランスが見えてくると思います。(新潟県・報道・出版)

ここで書かれている「一定のバランス」こそが求められているとも言えよう。

8-7. おわりに ー大きな期待を集める国立大学ー

以上、いくつかの観点から自由回答の意見を考察してきた。実に多様な内容が記されている自由記述のなかから、どれだけ「大学と地域の交流」に対して各県の有識者が抱いている考えを描き出せたかは心許ない。読んで大変面白いが、本稿で触れた論点とつながる点がないため、取り上げていない自由記述も少なくない。すべての自由回答は、本報告書の巻末資料に記載されるので、そちらの方を参照していただければ幸いである。

自由記述の内容を一言でまとめるとすれば、「国立大学への期待はとて大きい」ということに尽きる。教員調査における大学教員の自由記述には、地域交流への否定的なトーンの見解もある程度存在したが、それに比べて、有識者調査の自由記述欄に記されている意見の大多数が、大学と地域との交流に対する肯定的な考えを前提にしている点は、実に対照的である。もっとも、この自由記述欄は、質問項目の最後に位置しているため、大学と地域交流について問われたあとに記入するため、それまでの質問が誘導的になり、最後の自由記述の内容が肯定的な希望や期待を記す方向に引きずられてしまった可能性もあり考えられる。しかし、この点については教員調査の場合も同様なので、有識者が大学に寄せる潜在的な希望や期待は大変大きなものであると言って間違いないであろう。

最後に、国立大学に熱い期待を寄せている回答記述の例を挙げて、本章を締めくくっておきたい。まえの2つは県との交流への期待、あとの3つは、地方単位での交流への期待である。

香川大学と香川県は様々な分野で連携してきましたが、今後さらに交流を深める必要があると考えます。また、大学における教育機関としての成果や研究成果についても一般に公開されるようになれば、より一層大学の存在感が高まるものと考えます。香川県の今後の発展と香川大学の発展とは、同じ軌跡をたどるものと思います。(香川県・政治)

県内で開かれている研修会、講演会等で、貴校教職員の活動がもっとあっていい。地域のシンクタンクとして大いに期待している。そうした場に学生諸君も参加し、社会へ足を踏み出してみれば、勉強になる面もあるのではないかと。産業界との共同研究による成果を時々耳にするが、いわゆる“地方”においては佐大のそうした力に頼るところ大。一民間企業と捉えず、地域産業の支援と考え、今後も協力を願いたい。(佐賀県・医療・保健)

東北大学は学問の府として本県の象徴であり、広く東北6県のリーダー的存在でもある。その意味で東北の発展のカギを握る研究機関として地域との連携を一層深めるべきである。(宮城県・行政)

広島大学が、広島県・中国地方に果たしてきた役割は大いに評価する。広島大学は単に広島地域の大学ではなく、中四国の中核的な大学であるから、アジア全域をも視野に入れた人材育成の大学になればよい。(広島県・行政)

九州大学は九州最大の大学院国立大学である。この大学の繁栄が、九州全体の浮揚にかかわると思う。(福岡県・行政)